

<大賞 1団体>

■ 特定非営利活動法人 ノーベル（大阪）

「～社会全体で子育てを～」

子どもの急な病気の時ののりきり方術を広めるプロジェクト」

<p>団体概要</p>	<p>子どもを産んでも当たり前前に働き続けられる社会を作るため、2010年2月に、関西初となる「当日予約でも100%対応」の地域密着・派遣型病児保育事業を開始した。病児保育とは、子どもが熱を出した時に働く親の代わりに預かることで、保育園は37度5分以上の熱を出すと子どもを預かってくれず、子どもが熱を出すたびに仕事を休まざるを得ない家庭にとって悩みの種になっている。</p> <p>具体的な活動は、当日の朝8時までの依頼であれば病児保育に必ず対応することが特徴で、子どもの自宅で1対1保育、感染症でも預かり可能であり、親の代わりに受診代行可能となっており、親子にとって安心・安全の保育を徹底している。当初、大阪市の2区で開始したが、現在は大阪市内全域・吹田市南部へとサービスエリアを拡大しており、提供エリア外からの問い合わせも多く、今後もエリアを広げていく予定である。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子どもの急な病気の対応に特化した、働く父親母親に向けた小冊子「子どもが熱を出しても仕事が休めなくても明るく乗り切るノウハウが満載の『働く！！おかん図鑑』」を使って、当事者同士、またそれ以外で情報を共有できるワークショップを開催し、そこで出たノウハウをさらに発信する事業である。</p> <p>まず、働くおかんが集まり小冊子を使ったワークショップ「リアルおかん会」で、子どもが病気の時にどうやって乗り切っているのかノウハウを共有し、仲間意識の芽生えとモチベーションアップできる場として年3回開催する。次に企業の人事担当者や労働組合等の当事者以外同士のワークショップで、どのようなサポートができるのか一緒に考える場として年に2回実施する。さらに、その二つで出てきた新たな情報やノウハウを記録し、ノウハウ専用WEBページや当事者同士・当事者以外同士がつながる場をWEB上で提供し、広く社会に発信する事業である。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、病児保育ののりきり方をテーマにしっかりした事業の組み立てをしている点が、先進性・創意工夫・社会性・実現性の面で大きく評価された。また、病児保育で実績があり、組織基盤が確立している団体が、企業や労組など当事者以外にも広げようと展望しており、今後の効果と発展性も大きく期待できる。</p> <p>病児保育という社会的に大きな問題になっているテーマを強く応援することは、働く人のくらしや子育て支援を謳っている本アワードの主旨に合致するものであり、大賞団体としてふさわしい内容である。</p> <p>本アワードの助成を受けて、病児保育の社会的認知を広げる活動を進めることで、本事業の目指す社会全体で子育てする社会づくりへの一助となって欲しい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 地域福祉サポーター とんかち（滋賀）

「次世代に楽しい伝統的な遊具の工作と遊びを伝授」

<p>団体概要</p>	<p>現役を退職した日曜大工大好きシニアが、現役時代に培ったスキルを活かして、地域社会貢献へと新たなデビューを目指して2009年4月に設立した団体である。木工創作家具づくり、木工創作遊具づくりを得意分野として、児童達に伝統的な楽しい教材遊具の作り方や遊び方を伝授することで、頭脳と手先や心身の成長に資することを目的としている。</p> <p>具体的な事業としては、福祉施設への大型整理棚等の創作家具の製作提供、伝統的な木工教材遊具を児童クラブに持参して遊び体験の実施、親子木工教室による3世代間交流などの事業を展開している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、退職したシニア達が自身のスキルを活かし、併せて先代から受け継いだ思いを成長する次世代の子ども達に伝授するものとして、地元産の間伐材を活用し多様な木工教材を創作して、児童達に楽しい工作と遊びの出前教室と、親子教室を行うものである。</p> <p>具体的には、木のコマやパズル・積み木・間伐材のコースター作り等の様々な種類の出前教室を、これまで実績のある児童クラブだけでなく、新たな試みとして児童館・小学校・幼稚園などでも実施する。また、親子木工教室では父親母親を交えた3世代交流を図る。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、シニアが子どもに工作を教える自然体の活動であり、創意工夫や社会性・実現性がある。現在は核家族化が進行・深化し、祖父母と同居しない多くの孫達世代が一般化しており、祖父母のぬくもりと共に、ものづくりや伝統的な遊びを伝える機会の貴重さは増している。</p> <p>そして、シルバー人材センターや、折り紙・理科実験グループ等の外部の人材との協働も行っており、共感と市民参加の面からも高く評価できる。</p> <p>シニアのボランティアグループが加齢と共に活動が弱体化する問題に向き合い、会員の技量向上と合わせて、日曜大工大好き市民向けのオープンな学習会に取り組むことで新しい仲間作りを進めており、今後も継続・発展することを期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 ならチャレンジド（奈良）

「地域社会で生きる！特別支援学校生徒の社会参加および就労支援」

<p>団体概要</p>	<p>保護者、企業人、元県職員等が集まり、特別支援学校生徒の就労支援を中軸にすえて、2010年2月に設立された団体である。県立特別支援学校・福祉施設・事業所・ハローワーク・障がい者職業センター・县市町村等と連携し、地域で暮らすチャレンジド（障がい者）に対して、生活相談、就労支援を含む福祉サービス、および社会参加等に関する事業を行い、チャレンジドがあらゆることに挑戦し、“誇り”をもって豊かに生きる「共生社会」の推進に寄与することを目的としている。</p> <p>具体的には、音楽祭や奈良県識字合同学習会など県下のイベントにおいて、特別支援学校の生徒が、受付係や司会などの主催者スタッフとして社会参加する事業と、保育園や病院・銀行などでの職場実習に取り組んでいる。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、特別支援学校生徒が地域のイベントへ主催者スタッフとして参加する機会を創出する事業で、就労への第一歩として、官公庁や企業へ職場実習を依頼し、特別支援学校と事業所とつなぐ内容である。</p> <p>具体的には、奈良県、市町村等の行事へ主催者スタッフとして社会参加（受付、司会、運営補助等）できる機会の創出と、職場実習ができる事業所の開拓を特別支援学校との連携で取り組み、それを広く啓発するために広報紙を発行して社会に伝えるものである。社会参加の機会は年40回、職場実習は年20回、広報紙は年3回を目標としており、生徒が就労に向けて自立していくための総合的なプログラムである。</p>
<p>講評</p>	<p>特別支援学校の生徒達自身は、「人の役に立ちたい」と強く願っており、就労についても十分に働く力と意欲がありながら、活躍できる機会は少なく、あっても限定的という問題がある。本事業は、様々な機関との連携でその課題に対応するもので社会性と共感と市民参加があり、生徒にも受入先にも負担が少なく初めることができるイベントでの受付等を社会参加の入り口として用意している点等に創意工夫を感じられる。</p> <p>働く仲間の支えあいを基礎としている本アワードの助成によって、これまでの活動をさらに深化・発展させることによって、地域における特別支援学校生徒への就労支援が量的にも質的にも波及・発展することを大いに期待したい。</p>